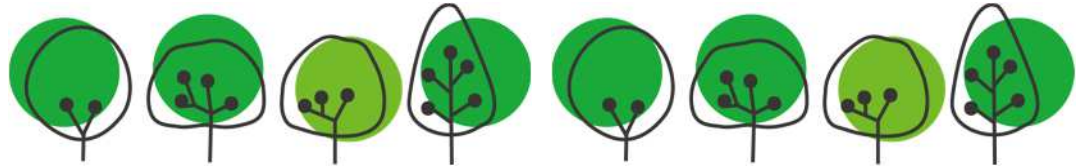




木地師のふるさと

vol.16



R7. 9発行

令和7年11月8日に木地師シンポジウムを開催します！

木地師のろくろ技術によって生み出された万年筆をテーマとした基調講演

シンポジウムの基調講演では、民俗学や伝承史を専門とされている国立歴史民俗博物館の小池淳一教授をお招きし、木地師のろくろ技術により近代になって新たに生み出された「万年筆」をテーマに話していただきます。

小池教授は、万年筆を中心とした「文字文化」と民俗との関わりについて、調査・研究を重ねられています。また、研究者であると同時に万年筆愛好家でもあり、様々な万年筆をご自身でコレクションされています。

技術と文化、そして人々の暮らしが交差する興味深いお話をお楽しみいただければと思います。



国立歴史民俗博物館
小池淳一教授

全国各地の現役木地師職人によるパネルディスカッション

パネルディスカッションでは、福島県会津若松市、石川県加賀市山中温泉、神奈川県小田原市、滋賀県長浜市、広島県廿日市市宮島町から、現役の木地師・塗師5名をお招きし、「木地師における伝統技術の継承とその課題」をテーマに議論いただきます。

活動する地域も世代も異なる5名の木地師・塗師たちが日頃どのような製品を手がけているのか、その技術はどのように受け継がれてきたのか、そして、これからの時代にその技術をどのように継承していくべきか。それぞれの立場から、現場の声を交えて語っていただきます。

近年、多くの業界で職人不足が課題となる中、このパネルディスカッションを通じて、技術の継承や担い手の育成に向けたヒントを見つけいただければ幸いです。

また、会場では各職人による作品の展示も行います。地域性や作り手の個性が表れた作品の数々をぜひご覧ください。



木地師
川北浩嗣氏
(石川県加賀市山中温泉)



木地師
下村祐介氏
(広島県廿日市市宮島町)



木地師
露木清勝氏
(神奈川県小田原市)



木地師
長谷川利之氏
(福島県会津若松市)



塗師 渡邊嘉久氏
(滋賀県長浜市)

開催日時：11月8日(土) 13時～16時半終了予定
場所：アピアホール(ショッピングプラザアピア4階)
(東近江市八日市浜野町3-1)

詳細は、同封のチラシをご覧ください。

国選択無形民俗文化財「九州地方のきじ馬・きじ車製作技術」

調査者：櫻井龍彦氏（木地師のふるさと発信事業委員会 委員／名古屋大学名誉教授）

■木地師の伝統的な技術を受け継ぐ「きじ馬・きじ車」

本年3月、「九州地方のきじ馬・きじ車製作技術」が国が記録を残すべき民俗文化として認める国選択無形民俗文化財に選ばれました。木地師の伝統的な技術を受け継いで作られたものとして評価されたことが選定理由です。

きじ馬・きじ車とは九州各地で製作されてきた木製の郷土玩具です。しかし、現在も製作を続けている専門の職人がいるのは熊本県人吉市のみとなっています。

きじ馬・きじ車は桐や朴の木の本体に、輪切りにした松の木の車輪をつけたもので、椿の赤い花などが描かれる華やかな玩具です。2輪のものはきじ馬、4輪ものはきじ車と呼ばれることが多いようです。現在は小ぶりの置物が多くなっていますが、かつては子供が引っ張ったり、乗ったりして遊ぶことができるような大きなものでした。



大きいサイズのきじ馬

きじ馬の起源は定かではありませんが、最初に作られたのは、熊本県と鹿児島県の県境に近い、山あいの大塚や木地屋あたりと伝えられています。きじ馬の頭に書かれている「大」という字は「大塚」の「大」であるという説もあります。

本市とのつながりに注目すると、1707（宝永4）年に蛭谷町から人吉市古仏頂町に氏子駈が行われた記録があります。古仏頂町は人吉市街から木地屋町へ行く途中に現存します。

なお、氏子駈帳・狩帳には鹿児島県内の記録はなく、人吉市が氏子かりの南限と言われていますが、鹿児島県大口市に木地山という地名があり、薩摩地域にも木地師がいたことは間違いないと考えられます。

■きじ馬の復興に貢献した住岡家の方々に聞きました。

きじ馬製作は長い歴史の中で徐々に衰退していましたが、その復興に貢献したのが現在も住岡郷土玩具製作所を営んでいる住岡家でした。初代の住岡喜太郎さん（1898年生）は仏師でありながら玩具も製作され、きじ馬、花手箱などの郷土玩具を再興しました。2代目の忠嘉さん（1935年生）は幼い頃から親の仕事を手伝い、今年90歳を迎えた現在も元気に製作を続けられています。



センをつかって面取りをする
3代目孝行さん

住岡家は家族経営で、木工作業は忠嘉さんと3代目の孝行さん（1977年生）が、絵付けなどは忠嘉さんの妻・るい子さんと娘・久美子さんが担当しています。

2代目の忠嘉さんはきじ馬の伝統的な形や形式を守ることを大切にしていました。3代目の孝行さんは伝統を尊重しながら、新しいかたちの玩具の創作にも挑んでいます。例えば、絵柄を鯉のぼりにしたり、イタリアの玩具ロディ（Rody）とのコラボ製品に取り組んだり、キーホルダーやタイピンなどの小物も作ってられます。また、人体に無害な天然塗料を使うなど、環境・安全への配慮もされています。

住岡家の皆さんの話を聞くと、現在人吉市に残るきじ馬製作を存続させるためには、材料となる木材の確保、加工に使う道具の入手困難、後継者不足といった課題があるそうです。こうした悩みは、全国各地の様々な伝統産業でも共通するものですが、きじ馬製作においても次世代への技術継承が大きなテーマとなっています。

木地師の末裔：岐阜県高山市丹生川町の小椋家

調査者：筒井正氏（東近江市参与／名古屋商科大学非常勤講師）

■高山市丹生川町の山神さんに筒井神社の御札が納められました。

本年4月、高山市丹生川町在住で木地師の末裔・小椋美知男氏から「筒井神社の御札を新しく書いてほしい」との依頼があり、同年7月に開催された惟喬親王祭に美知男氏が参列され、筒井神社の氏子代表小椋正清氏から筒井神社の御札が手渡されました。

丹生川町の小椋家は先祖代々、東近江市蛭谷町に鎮座する筒井神社の御札を納めた山神さんを奉祀してきましたが、その本殿が倒壊してしまっただけで、木地屋溪谷内の私有地に本殿を再建し、遷座に合わせて新たなお札を求められたという経緯でした。

同年8月6日、乗鞍本宮の今寺隆之宮司の司祭のもと、山神さんの遷座式が執り行われ、筒井神社の新しい御札も納められました。

山の民である木地師にとって、自然は恵みをもたらす一方で、恐怖と畏敬の対象でした。山の神の祭りは、豊かな暮らしへの感謝と職の安全を祈願する重要な儀礼であり、その精神は現在も小椋家の中で受け継がれています。



筒井神社の御札を受け取る
小椋美知男氏

■高山市丹生川町の小椋家の歴史

小椋家に系図は伝わっておらず、明らかではありませんが、残された古文書や聞き取りにより、歴史をたどることができます。

江戸後期、飛騨の神岡から小椋伊右衛門一家が丹生川村岩井谷に入り、木地挽きを行っていたそうです。小椋家に伝わる古記録*によれば、木地師文右衛門と書かれており、改名した可能性があります。

伊右衛門の三女・なみは、吉城郡小鷹郷新名村山の小椋徳右衛門の次男・小椋和右衛門を養子に迎えたそうです。蛭谷町が保存している「氏子駈帳」（第24号）によれば、1857（安政4）年に和右衛門は、小椋左仲に改名しています。

名を襲名した伊右衛門の次男・伊右衛門は、吉城郡元田村山の木地師久次郎の次男・松之助を養子に迎え入れました。左仲一家と松之助一家は、丹生川村折敷地にある木地屋溪谷を開拓し、木地挽きの下働きとして四家族を雇い入れ、木地稼業に専念したと言われています。1858（安政5）年、左仲は折敷地内の山林を焼き畑として利用したい旨の永代借用証文を名主に提出したという記録もあります。

木地屋溪谷で暮らしていた小椋左仲・松之助一家は明治時代の戸籍制度の発足に伴い、折敷地内の五味原集落に転居したそうです。しかし、1974（昭和49）年に中部電力による水力発電を目的としたダム建設のため五味原集落は水没。五味原集落17戸のうち16戸が丹生川町大萱地区に集団移転し、現在に至ります。

集団移転の際に先祖の墓も大萱地区上手に移転しました。それらの墓の中には十六花卉の菊の紋が刻まれているものがあり、木地師の墓であることがわかります。

松之助の子孫である美知男氏は現在、山の案内人や乗鞍の環境保全の仕事などに従事されており、樹木や高山植物にも興味を持っています。「豊かな自然の中で森林のことについて学びながら暮らし続けることができる環境整備を国や自治体にしてもらいたい」と語る美知男氏。また、木地師の末裔として、山神さんや木地師に関する古文書や道具などを将来にも継承してほしいと願われています。

*蛭谷筒井公文所が1843（天保14）年に発行した往来手形や蛭谷帰雲庵が1847（弘化4）年に発行した宗門手形等



十六花卉の菊の
紋が刻まれた墓

アーカイブ・プロジェクトの報告書が完成しました！

約6年間にもわたる作業の集大成

木地師のふるさとアーカイブ・プロジェクトでは、龍谷大学名誉教授の須藤護氏の監修のもと、市民ボランティアの協力を得ながら、市の保有する約1,300点以上もの木地師に関連する資料の整理を進めてきました。

1年をかけて、須藤先生の指導のもと、ボランティアの方々の思いも詰め込んだ「東近江市 木地師アーカイブ・プロジェクト 資料紹介」が完成しました。

1章では、木地師のふるさと東近江市のこと、また、東近江市と各地の木地師との関係性、ろくろ技術の発展などについて、須藤先生に執筆していただきました。

2章では、本プロジェクトの経緯、報告書を作成するに当たり、ボランティアの方々の意見も参考に考え方を取りまとめた分類グループなどについて記載しています。

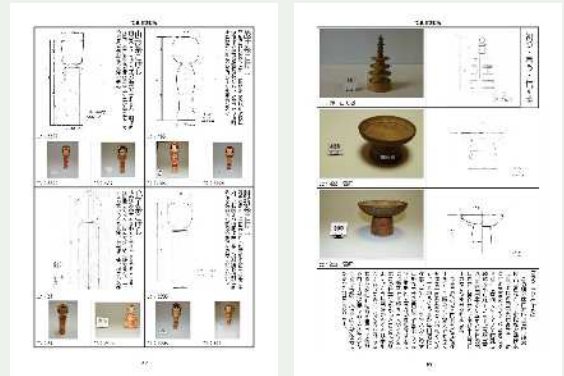
3章では、東近江市内に収蔵される資料について、その特徴を写真と図面で紹介しています。掲載している写真や図面はボランティアの方々によって作成されたものです。それぞれの分類グループの歴史や特徴は須藤先生にまとめていただきました。

4章では、これまでプロジェクトに関わっていただいたボランティアの方々のお名前、活動の様子をまとめました。

本報告書は11月開催の木地師シンポジウムの会場のほか、木地師のふるさと発信事業や森の文化推進事業の中で紹介していく予定です。その機会にぜひ手に取っていただければと思います。

東近江市 木地師アーカイブ・プロジェクト 資料紹介 目次

- 1 木地師の総合センター・小椋谷
 - (1) 木地師のふるさと
 - (2) 会津地方の木地師と近江
 - (3) 『新編会津風土記』より
 - (4) 明治以降の木地師の動き
 - (5) 近代化を支えた挽物師
- 2 木地師アーカイブ・プロジェクト
 - (1) プロジェクトがはじまる
 - (2) 資料の全体像を明らかにするために
 - (3) 「暮らす」と「作る」の両輪
- 3 収蔵資料の特徴と資料紹介
 - (1) 能登川博物館
 - (2) 旧湖東歴史民俗資料館
 - (3) 中島家（東近江市和南町）
- 4 木地師アーカイブ・プロジェクトを終えて
 - (1) 作業風景
 - (2) プロジェクト参加者一覧
 - (3) 参考文献



報告書3章 資料紹介ページ

木地師のふるさと 東近江市

発行：東近江市企画部企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町 10番5号

TEL（代表）0748-24-1234 （直通）0748-24-5610

FAX 0748-24-1457

Email kikaku@city.higashiomi.lg.jp

Facebook <https://www.facebook.com/higashioumi.kijishi>

（Facebookでは随時、お知らせ等を行っています！！）

市HP



Facebook

